



## Baton

令和7年1月  
岩手県立宮古病院  
地域医療福祉連携室

### 年頭のご挨拶

院長 川村 英伸



新年明けましておめでとうございます。今年の干支は「乙巳(きのとみ)」で、芽吹きが成熟し、転機を迎える時期になるということです。今年は昨年と違い、自然災害なども無く、穏やかな正月を迎えることができました。

昨年度、当院は7年ぶりの赤字決算(△3.4億円)となりました。呼吸器内科、糖尿病内科の常勤医不在やコロナの補助金のカットが原因で、大幅な減収となりました。県立病院全体でも32億の赤字となり、県立病院のかつてない経営危機となっています。現在様々な手段で経営改善に取り組んでいますが、今年度は更に収支が悪化し90億の赤字となる予想ということです。急激な人口減少や診療報酬の不適正、複合ニーズを要する高齢者の増加など、原因はいくつか考えられますが、県立病院の機能分化と連携強化、職員の適正配置、経費削減など様々な対策を構築し実施していかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症が世界に拡大してから、すでに5年以上が経過しました。令和5年5月から感染症の5類に引き下げられ、現在12波のピークにさしかかっているところです。最近のウイルス株は感染力は強いですが、重症化する患者さんはかなり減少し、入院が必要な患者さんは基礎疾患の多い高齢者に限られてきました。

しかし、感染者は感染の波に関係無く年中発生するようになり、ひとつの病室で発生すると病棟中に広がることが依然として起こっています。また、ここ数年の傾向ですが、年末からインフルエンザも流行し、現在も定点あたりの患者数は、30を超える警報レベルとなっています。これらのウイルス感染症は、今後も共存の道を探りながら対応せざるを得ない状況であると思われるます。

昨年4月より、医師の働き方改革が実施されました。勤務医の長時間労働を減らす労働環境の改善が狙いで、時間外・休日労働の上限規制が原則年960時間となっています。当院の医局では、月100時間に迫る労働時間の医師が数名おり、働く環境がまだまだ厳しいことを示しています。患者様への医療サービスを低下させることなく、これまで同様、患者様の訴えに耳を傾けることが大事であると重ねて強調したいと思います。

10月からは、当院の改修工事が始まる予定でしたが、工事を請け負う会社の入札(3回施行)が決まらず、結局工事を断念することとなりました。33年経過し老朽化した病院のリフォームの道が途絶えましたので、今後は部分的な計画改修工事を行うこととなります。

世界各地の戦争や紛争、頻発する自然災害、地球温暖化、アメリカ第1主義を掲げるトランプ大統領の就任など、世界は益々混沌として複雑化しています。医療も同様です。私たちは、仕方ないと諦めるのではなく、個々に意見を持ち、その都度最善の方法を選択していかなければなりません。

皆様にとって平和な年でありますよう祈念して、年頭のあいさついたします。

# 令和6年度地域公開研修会について

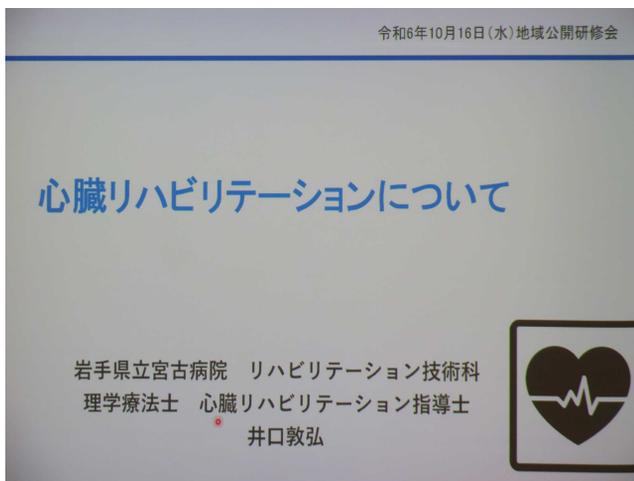
令和6年10月16日(水)、宮古病院2階会議室にて今年度3回目となる地域公開研修会を開催しました。

この研修会は、地域の医療に関する知識向上、看護や介護の実践能力の向上及び継続的ケアに繋がるネットワークづくりを目的として開催しております。

今回の研修会は、「心臓リハビリテーション」について、リハビリテーション技術科の井口心臓リハビリテーション指導士が講師となり、介護施設等から多数の職員さんが参加されました。

研修会は、心不全や心臓リハビリテーションの構成要素である運動療法について効果や禁忌などを交えた具体的な説明など外来心臓リハビリテーションの重要性が再認識できる研修会となりました。

講演からは、心不全について、心不全減らし隊の説明や心不全再入院率の推移から心不全手帳配布開始後の再入院率が低下傾向にあることなどの説明がありました。また、宮古医療圏域では、今後更なる心不全患者の増加が懸念されることなどが話され、参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。



# 令和6年緩和ケア研修会について

令和6年11月23日(土)、宮古病院会議室にて令和6年宮古地域緩和ケア医療従事者研修会を開催しました。

この研修会は宮古地域のがん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を習得することを目的に毎年開催しております。

今年は、当初、県立中央病院との共同開催を予定しましたが、共同開催の要件が整わず宮古病院での単独開催となったため、開催が例年より1ヶ月ほど遅くなりました。

昨年は宮古病院の職員のみでの参加でしたが、今年は当院以外の2施設から3名の参加があり、施設を超えた交流を図れた研修会となりました。

12名の参加者が4グループに分かれ、医師役や患者役に扮したコミュニケーションに関する研修、また、患者さんの全人的苦痛に対する緩和ケア研修など丸一日かけた集中した研修会となりました。



# 岩手県立宮古病院住民健康講座について

令和6年11月27日(水)、田老公民館において今年度2回目となる住民健康講座を開催しました。

この住民健康講座は地域の方々が最後まで住み慣れた地域で生活ができるよう、病院と地域の方々との対話を通して、地域医療に関心を高めてもらい健康意識の醸成を図ることを目的に毎年地域の公民館などにお邪魔して開催しております。

今回の住民健康講座は、骨粗しょう症をテーマとして、1年次研修医の本田医師から「骨粗しょう症の診断・予防」について、加美理学療法士から「運動習慣で骨粗しょう症・骨折を防ぐ」について、齊藤診療放射線技師長から「骨密度測定検査」についての講演となりました。

また、白倉副院長からは地域医療の話題として「宮古地域の医師不足」「かかりつけ医はあるか」などの講演を通して宮古地区の現状を知って頂きました。

地域の方々からは、骨密度検査は「ペースメーカーを付けていても検査できるのか」「検査はどこで受けることができるか」など多くの質問が出され予定時間を過ぎてしまいましたが大変盛り上がった住民健康講座となりました。



## 岩手県立宮古病院 基本理念

私たちは、地域の皆様の健康と命を守るため

- 良質な医療の提供
- 信頼され親しまれる病院
- 働きがいのある病院づくり を目指します

## 岩手県立宮古病院

地域医療福祉連携室

岩手県宮古市崎楯ヶ崎1-11-26

責任者 川村 英伸

(地域医療福祉連携室長)